

2022年度

事業報告書

自 2022年4月 1日

至 2023年3月31日

一般社団法人 日本交通協会

I 事業の概況

1 事業の実施状況

一般社団法人日本交通協会が2022年度に実施した事業の概況と経過は、以下のとおりである。

(1) 会員加入促進と会員向けサービスの改善

機関誌「汎交通」の充実やコロナ禍においてもガイドラインに沿った講演会の開催を追求するなど、会員サービスに引き続き取り組むとともに、JTA研修修了者へのPR等新規会員加入促進の活動を活発化させてきた。

また、遠隔地会員等へのサービス強化として、講演会のZoomによるオンライン聴講を実現し実施してきた。

(2) 「ホームページ」「汎交通」の充実

① 「ホームページ」の充実

ホームページは、会員サービスのレベルアップと遠隔地会員へのサービスのために重要である。

これまで、講演録、交通研究委員会の記録などの充実に努め、会員へのタイムリーな告知の手段としても活用してきた。

また、会員専用ホームページと協会ホームページのホストの一元化を進め、協会ホームページへのアクセスを容易にできる仕組みを構築した。

② 「汎交通」の充実

汎交通については、鉄道150年に相応しく4回を通して「特集 鉄道開業150年～歴史と人物～」を組み、それぞれの時代において日本の鉄道の歴史を作った人物や背景にスポットを当てた内容とし、各号とも高い評価を受けた。

(3) 「講演会」等の開催

① 「講演会」の開催

当年度は、日本交通協会では12回の午餐会・講演会の開催を計画し、全ての講演会を、会場参加及びZoomによるオンライン聴講による参加を併用しての開催とした。

会場へのリアル参加者には新型コロナウイルス感染防止対策を種々講じながらご参加をいただいていた。

オンライン講演にあたっては、講演者のご協力を得て講演シミュレーションを行うなど、事前の諸準備を重ね、無事にオンライン講演会を開催することができた。

関西における開催は、新型コロナの状況を踏まえ、関係箇所と協議し、見送ることとした。

② 「交通研究委員会」の開催

交通研究委員会は、その都度テーマを決めて講師を招き、委員による研究会を開催している。当年度は6回の開催を計画し、新型コロナウイルス感染防止対策を講じ、計画どおり開催することができた。

うち、会員一般が参加する「拡大委員会」は1回開催した。

(4) 映写会・親睦会の開催

① 映写会

10月12日に開催し、㈱アネックのご協力による、イタリア映画「鉄道員」、(公財)東日本鉄道文化財団 鉄道博物館提供による走れ特急シリーズ「上信越・中部編」を上映した。

② 親睦関係

新型コロナウイルスの影響はあったが、各親睦会は感染防止対策を講じたうえで順次再開してきた。

囲碁部は、9月及び3月に大会議室において囲碁大会を開催し、定例会も20回行った。旅行部は、1月に新年会を開催するとともに、2023年度の旅行を計画した。競馬文化研究会は、6月及び10月に開催、10月はフリーアナウンサーの矢野吉彦氏を招いて講演会(演題:競馬と鉄道と私)を催した。

(5) J T A人材開発研修の開催

将来の鉄道経営を担うことが期待される人材を対象として、幅広い分野にわたる研修による育成と、組織・系統を超えたネットワークの形成等を目的として、2012年度より「J T A人材開発研修」を実施してきた。

当年度も、コロナ禍の状況下であることから、経営状況と感染への不安から参加見合わせの企業も一部見られたが、当年度で研修も第11回目を迎え、これまでの研修への評価も定着しており、新型コロナウイルス感染防止対策を種々講じたうえで開催した。当年度の研修には新たに2法人が加わり、16法人27名の受講者を迎え、前期の9月研修及び後期の1月研修を無事に終えることができた。

1月14日には、後期研修最終日にあわせ「第2回J T Aグランドセミナー」を開催(第一部はマスク着用による講演会、第二部は着席による交流会)し、第1回から第11回までの研修修了者が集い、共に学び交流を深めることができた。

第1回から第11回までの修了者は、18法人266名に上り、第一部は130名、第二部には124名の参加があった。

(6) 情報セキュリティ対策研究会の開催

I Tの急速な進化に伴い、サイバーセキュリティの重要性は益々高まっている。本研究会も2013年度から開催し、情報セキュリティの専門家と協

力し、サイバーセキュリティの現状と取り組むべき対策に関する研究会を上期、下期の年2回開催している。

当年度は7月12日と11月29日に開催した。

(7) 交通関係法人連絡協議会（当協会を含め21法人）の開催

当年度第1回目の協議会は、7月15日、当協会大会議室において開催した。当協会に限らず関係法人においても世代交代が進んできていることから、協議会の設立趣旨の確認も含め、関係法人が連絡、協力する体制の確認を行った。

10月7日の「鉄道記念日の集い」については、

- ・鉄道開業150年周年記念に相応しい集いとし、新型コロナウイルスの感染状況が沈静化していることを前提に所用の準備を進める
- ・開催に当たっては、新型コロナウイルス感染防止の観点から、ホテルメトロポリタンを会場として、総勢200名の人数制限を設けた中で、第一部式典・講演会、第二部着席、マスク着用による懇談会として開催する
- ・実施する場合は、感染防止対策に可能な限り取り組む

などの確認を行った。

また、「鉄道開業150年記念鉄道写真コンテスト」の結果報告及びさいたま市の「鉄道博物館」での入賞作品の写真展の開催の告知、同写真展に関する各法人ホームページでのPR依頼など今後の予定についての報告を行った。

更に、交通協力会から、「鉄道百五十年史編纂事業」の進捗状況についての報告が行われた。

9月上旬、当協会から新型コロナの状況を踏まえ、7月の協議会での確認通り「第150回鉄道記念日の集い」を開催すべく、その概要（第一部は着席での式典、講演会、第二部は着席による懇談《円卓、人数制限を設定》）を各交通関係法人連絡協議会参加の20法人宛に書面により提案し、協議会各法人の賛同を得て、予定通り第150回鉄道記念日の集いを開催することができた。

新年互礼会については、11月中旬に、当協会から書面により「令和5年新年互礼会」の開催について、新型コロナウイルス感染防止の観点から、ホテルメトロポリタンエドモントを会場として、第一部式典・賀詞交換会、第二部をマスク着用、着席による懇談会に分けて開催したい旨の提案を行い、賛同を得た。これに基づき、1月5日に「令和5年新年互礼会」を開催した。

なお、第2回目の協議会は、1月5日、令和5年新年互礼会開催前に開催し、10月に開催した「鉄道開業150年記念鉄道写真コンテスト」の総括が行われた。また、交通協力会からは、「鉄道百五十年史編纂の進捗状況」の報告が行われた。

(8) 新型コロナウイルス感染症対策

① 講演会、委員会等への対策

午餐会・講演会への対策として、前年度に引き続き、会場となる大会議室へは一定の入場制限(収容人数の半数、約100名)を設けるとともに、Zoomによるオンライン参加を可能として、会場へのリアル参加に加えオンライン参加を呼び掛け、会場への入場を一定程度制限し、感染防止に努めてきた。

また、講演会場の演台には講演者用のアクリル板を設置し、テーブル等の除菌は勿論のこと、入場者にマスク着用の徹底を図るとともに、会場入場前の体温測定サーマルカメラによる体温測定の実施、除菌アルコールによる手指等の消毒などを実施している。

各種委員会においても、午餐会・講演会と同様の対策のほか、透明の塩ビ板による飛沫感染防止策を講じている。

② 従業員向けの対策

従業員向けの対策として、日々の体調管理に注意を払いながら、以下の対策を講じている。

- ・通勤混雑時間帯を避けるための時短勤務の導入
- ・勤務中のマスク着用の義務化
- ・各所に消毒備品を設置、手洗いや手指消毒の徹底
- ・各々のデスクに飛沫防止用段ボール・パーテーション(フィルム窓付き)の設置
- ・扉の開放、窓の開扉、扇風機や高度空気清浄加湿装置の使用による執務室の定期的な換気の徹底

(9) 新国際ビル建て替え計画への準備

- ① 当協会は、2013年4月5日に三菱地所㈱との間で「借地権の権利変換に関する等価交換契約」を締結した。その際同社との間で締結した「新国際ビル建て替え計画に関する覚書」を踏まえ、今後とも相互信頼、互惠互譲の関係が維持発展される前提で、新国際ビル建て替え計画に対応するため「改築所要資金調達等検討委員会」を設置し、その検討内容に基づき建て替え準備資金として2013年度から2018年度まで年平均で5千万円を積み立ててきた。

2022年度は、下期において賃借人の退室に伴う預託金の返還、空き室のリニューアル工事等により赤字予算を余儀なくされており、経費節減に取り組んではいるものの、資金ショートが見込まれることから、所要額の一部取り崩しを行った。

現在の積立金合計は3億円である。

- ② 不動産賃貸事業については、新型コロナウイルス感染拡大の影響で低迷していた日貸貸室営業に回復基調が見られるものの、一部テナントの撤退

及び縮小の影響により、対前年度約1千2百万円の減収となった。

以上の結果、2022年度の一般正味財産期末残高は、前年度に比べ約1千5百万円の減少となった。

2 事業概要

(1) 第11回JTA人材開発研修

① 研修日程 前期 9月 8日 ～ 10日

後期 1月13日 ～ 14日

② 受講者 16法人 27名

(2) 交通関係法人連絡協議会

① 協議会の開催

・第22回協議会の開催 : 7月15日

・第23回協議会の開催 : 1月 5日

② 「第150回鉄道記念日の集い」の共同開催

・日 時: 10月7日 16時から18時15分

・会 場: ホテルメトロポリタン

(参加者: 第一部 193名、第二部 159名)

・第一部: 式典

主催者代表挨拶 大塚陸毅 会長

来賓代表挨拶 藤井直樹 国土交通省国土交通事務次官

深澤祐二 東日本旅客鉄道(株)代表取締役社長

講演会

講演者 原 朗 鉄道百五十年史編集委員長

演題 「鉄道150年史の一論点 -新橋停車場と高輪築堤-」

・第二部: 懇親会

乾杯 長谷川一明 西日本旅客鉄道(株)代表取締役社長

締め 白川保友 (一社) 日本鉄道運転協会会長

③ 「令和5年新年互礼会」の共同開催

ホテルメトロポリタンエドモントを会場として、式典・賀詞交換会及び懇談(着席・マスク着用)の二部制で開催

・日 時: 1月5日 16時から18時

・会 場: ホテルメトロポリタンエドモント

(参加者: 第一部 183名、第二部 143名)

・第一部: 式典

主催者代表挨拶 大塚陸毅 会長

来賓代表 藤井直樹 国土交通省国土交通事務次官

深澤祐二 東日本旅客鉄道(株)代表取締役社長

賀詞交換会

- ・ 第二部：懇親会（マスク着用、着席）

乾杯 犬飼 新 日本貨物鉄道(株)代表取締役社長兼社長執行
役員

締め 林 康雄 （一社）日本鉄道技術協会会長

(3) 講演会

- ・ 4月22日「バス事業の現状と課題」
(公社)日本バス協会代表理事・理事長 石指雅啓 氏
- ・ 6月17日「ウクライナ戦争を通して見た台湾・中国情勢」
元海上自衛隊自衛艦隊司令官 香田洋二 氏
- ・ 7月 8日「ウクライナ衛星画像マップ」
東京大学大学院情報学環・学際情報学府
教授 渡邊英徳 氏
- ・ 9月16日「旅は人生のサプリメント～その楽しさと愉しみ方～」
日本旅のペンクラブ代表（旅行作家） 中尾隆之 氏
- ・ 10月13日「鉄道開業 150 年と JR 東日本グループ」
東日本旅客鉄道(株) 代表取締役社長 深澤祐二 氏
- ・ 10月28日「JR 北海道の現状と課題」
地域交通維持と新幹線札幌開業」
北海道旅客鉄道(株) 代表取締役会長 島田 修 氏
- ・ 11月18日「資源もエネルギーもヒトも循環させる」
サステイナブルブリュアリー」
尾畑酒造(株) 専務取締役 尾畑留美子 氏
- ・ 12月 9日「岸田政権の行方と日本を取り巻く国際環境」
ジャーナリスト 歳川隆雄 氏
- ・ 1月24日「鉄道をめぐる昨今の課題」
国土交通省 国土交通事務次官 藤井直樹 氏
- ・ 2月17日「安全、健康、ウェルビーイング」
～「安全と安心」の考察に向けての試み～」
(公財)鉄道総合技術研究所 会長 向殿政男 氏
- ・ 3月10日「仙厓から若冲まで」
―響き合う出光佐三とプライスコレクション」
出光美術館館長、青山学院大学文学部
比較芸術学科准教授 出光佐千子 氏
- ・ 3月24日「ウクライナ侵略 13 カ月の真実」
産経新聞論説委員 斎藤 勉 氏

(4) 調査研究関係

① 交通研究委員会

- ・ 6月 6日「乗務員区所シミュレータで変わる乗務員指導」
東日本旅客鉄道(株) 鉄道事業本部 運輸車両部
次長(乗務員) 寺田竜也 氏
- ・ 7月 4日「激甚化する自然災害に対する鉄道の強靱化」
(公財)鉄道総合技術研究所 理事 古川 敦 氏
- ・ 9月 5日「京急の経営戦略と安全への取り組みについて」
京浜急行電鉄(株) 取締役会長 原田一之 氏
顧問 道平 隆 氏
- ・ 11月 11日(拡大委員会として開催)
「九州を元気に！～JR九州のこれまでとこれから～」
九州旅客鉄道(株) 代表取締役会長執行役員 青柳俊彦 氏
- ・ 2月 6日「鉄道建築の最近の動向と技術課題解決に向けた取り組み」
(株)JR 東日本建築設計 代表取締役社長 有山伸司 氏
- ・ 3月 6日「JR 東日本の建設 DX への挑戦
～スマートプロジェクトマネジメントの取り組み～」
東日本旅客鉄道(株) 常務執行役員 小山 宏 氏

② 情報セキュリティ対策研究会 (2回)

③ 海外交通政策資料研究会 (4回)

(5) 汎交通

機関誌「汎交通」は、機関誌・蔵書等審査委員会において議論しつつ、運輸・交通界の近況やその時々を世情を反映した特集を中心に、講演会、交通研究委員会等の講演内容をも掲載し、年4回発行している。当年度は鉄道開業150年を記念し、第I号から第IV号までの特集として、鉄道開業150年を「人」に光をあてて振り返ろうと、「鉄道開業150年～歴史と人物」と題し、鉄道に関わりのあった人物や背景などを採り上げて発行し、各号ともに好評をいただいた。

配布先としては、当協会会員に加え、関係の図書館や資料室、大学、行政機関及び社団法人・財団法人等、約110箇所配布している。

(6) 鉄道開業150年記念鉄道写真コンテスト

鉄道コンテストには1930点もの応募があり、その中から選出された15点の入賞作品は7月30日～9月1日に鉄道博物館で写真展を開催し、現在、作品は協会内に展示している。

「鉄道開業150年記念鉄道写真コンテスト」の入賞作品を「汎交通」の裏表紙に掲載した。

(7) 図書関係

図書活動は、①鉄道経営資料の収集及び交通研究資料の整備②交通関係図書の充実及び現存資料の保全・整備③蔵書の整理・分類④博物館・美術館への展示物の貸出(鉄道ポスター、書籍)など、交通関係の文化活動支援について日々実施している。

図書館の当年度末蔵書は12,223冊で当年度の受入れは196冊(寄贈196冊)であった。定期刊行物(雑誌類)は、購入22種、寄贈59種の合計81種であった。

- ・閲覧者数は、317名(対前年度57名増)
- ・リファレンスは、18件(対前年度3件減)

(8) 助成金・分担金

- ① 日本交通学会が交通に関する学術等を奨励する事業として設けた日本交通学会賞に対し、1990年より実施している助成金、20万円を拠出した。
- ② 1994年から毎年10月14日に開催している「鉄道の日」に行われる諸行事の計画・運営のための分担金として、鉄道の日実行委員会に46万5千円を拠出した。
- ③ 交通新聞社主催の「JRスポーツ賞」に対する協賛金として20万円、他トロフィー代等5万3千円ほどを拠出した。
- ④ 交通協力会主催の「交通図書賞」に対する協賛金として約300万円を拠出した。
- ⑤ 「鉄道百五十年史」編纂事業の発行主体であり事務局となっている交通協力会に寄付金として100万円を拠出した。

(9) その他

① 映写会

- ・開催日：10月12日
- ・長編：1956年制作イタリア映画「鉄道員」
- ・短編：走れ特急シリーズ「上信越・中部編」

② 親睦関係

- ・囲碁部：指導碁を含む例会を20回、9月及び3月には大会議室において囲碁大会を開催した。
- ・俳句部：4月、5月、6月及び9月にそれぞれ1回ずつ開催した。
- ・競馬文化研究会：6月及び10月に特別会議室に於いて開催した。10月はフリーアナウンサー矢野吉彦氏による講演会(演題：競馬と鉄道と私)を行った。
- ・旅行部：1月に新年会を特別会議室に於いて開催した。

併せて、2023年度の旅行会についての打ち合わせを行った。

3 役員会等に関する事項

(1) 定時総会

2022年5月26日14時から第116回定時総会を開催した。

新型コロナ感染予防の観点から、極力委任状もしくは議決権行使書による参加を呼び掛けての開催となった。

議決権総数911個に対し、当日の実出席者数16名（16個）。議決権行使数は349個、委任状は253個、総計618個で成立し、議案はいずれも原案通り可決された。

(2) その他の会議

① 理事会

- ・第1回定期理事会は、5月11日に開催

※理事19名、監事2名が出席

- ・第2回定期理事会は、10月7日に開催

※理事22名、監事3名が出席

② 顧問会議

11月7日に開催

※顧問13名、役員3名が出席し、関西大学経済学部教授宇都宮浄人氏による講演及び会務の報告を行った。

③ 総務企画委員会

- ・1月16日に臨時委員会を開催
- ・3月31日に定例の委員会を開催

④ 機関誌・蔵書等審査委員会

当年度は、4月、6月、7月、9月、11月、1月及び2月の計7回の開催となった。

⑤ 講演等委員会

2月10日に開催

II 会員の状況

当年度末における会員数は、個人会員は693名で前年度末に比較して4名減、法人会員は215社で1法人増となった。

新規会員（個人）は、45名の加入があったものの、退会者（物故者を含む。）が49名にのぼり、4名減となった。今後も会員の年齢層（当年度末の平均69.9歳）から見て退会は続くものと予想される。

Ⅲ 役員等に関する事項

期末における役員は、会長、副会長、理事長の３名を含む、理事３３名、監事３名である。